

日 時：平成24年7月4日（水）13：30～15：30  
場 所：石狩市役所 4階 401・402 会議室  
参加者：28名

【 当 日 の 内 容 】

13：35

- ◆ 開会

13：35～13：40

- ◆ 情報取得手段についての情報提供（事務局／石狩市 総務部）
  - ・石狩市メール配信サービス、緊急速報メール
  - ・石狩市の情報取得手段

13：40～13：50

- ◆ 本日の進め方の説明（事務局／株ドーコン）
  - ・グループ別意見交換の進め方

13：50～15：05

- ◆ グループ別意見交換
  - ・前回の意見交換結果の確認
  - ・いろいろな観点での「日頃の備え」を検討

15：05～15：30

- ◆ グループ別意見の発表
  - ・各グループ代表者から発表

15：30

- ◆ 閉会



## ◆グループ別意見の概要

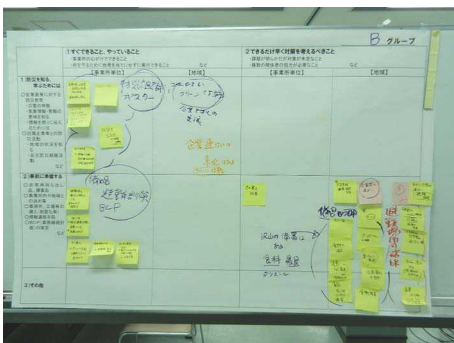
### Aグループ（4名）

- ・ガス協会全体でのガイドライン（地震・津波対策など）、自社の要領を作成し対策をとっている。
- ・二次災害の防止策にも取り組んでいる。
- ・耐震性については震度7まで対応できるようにしている。
- ・衛星電話など通信面の準備もしている。
- ・備蓄については、全従業員の3日分の水・食糧を各事業所に備えている。
- ・地域全体として高いところがないので、津波避難タワーをつくって、避難・備蓄に利用できればよい。
- ・津波を想定した訓練も行っている。教育・訓練については、ワンパターン化せず、社員の意識を高める工夫をしている。



### Bグループ（5名）

- ・ごみ拾い運動などで企業連携の素地をつくっている。
- ・防災訓練や防災組織づくりは各社とも行っている。
- ・避難先など具体的な情報を把握する必要がある。
- ・食品、ダンボール、寝具などの製品関連会社が多く、災害時に相互に活用できる。
- ・避難場所として高い場所の確認や準備が必要。
- ・冬期災害時の対応が課題。



## Cグループ（8名）

- ・耐震診断の結果、これから耐震改修を行う企業もある。
- ・物流のための燃料備蓄の対策をどうするかが課題である。
- ・BCPを策定した後、それが機能するかどうか実際にシミュレーションを行うことも重要である。
- ・災害時の電力供給として、メガソーラーや風力発電などを利用し、地域向けに災害時電源として貸し出すことも考えられる。
- ・食料・水に加え、避難用のゴムボートやトイレも必要である。



## Dグループ（8名）

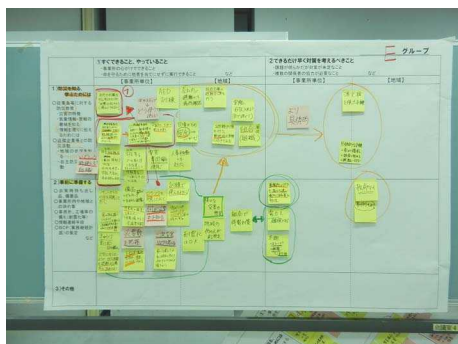
- ・災害の種類・規模を想定した上での議論が必要である。
- ・非常食・電源の確保が必要である。
- ・多くの事業所において、連絡網などを既に作成している。
- ・避難場所・ルートなどについて、適切な判断のためには具体的かつ的確な情報が必要である。
- ・小エリア別の防災拠点が必要である。
- ・BCPに基づいた訓練を行ったが、社員に徹底させるのが難しいという課題がある。





## Eグループ（3名）

- ・災害時の情報伝達の組織図を人事異動ごとに更新し、冬期の帰宅困難対策としても活用している。
- ・様々な災害の場面を想定して、準備する内容や数を考える必要がある。
- ・被災者の体験を参考にした準備（ロウソクなど）も必要。
- ・帰宅困難者の実態・状況に合わせて、臨機応変に対応することが必要である。
- ・組合など組織で非常用の電源・送電システムを整備する必要がある。
- ・ストーブや救命艇など企業の持つ技術を活用して準備できるものもある。



	①すぐできること、やっていること		②できるだけ早く対策を考えるべきこと	
	【事業所単位】	【地域】	【事業所単位】	【地域】
1) 知る 学ぶ	<p><b>【ガイドライン】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波避難の要領書作成→ガス協会として「津波対策ガイドライン」策定（H25 予定）</li> <li>・何を優先するかをきちんと考えることが必要</li> <li>・従業員への意識付けが大切</li> <li>・改訂した内容を周知</li> </ul> <p><b>【耐震】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガス施設→震度 7 まで OK</li> </ul> <p><b>【通信・連絡】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・衛星電話+災害時優先電話</li> </ul>	<p><b>【訓練】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要領に基づいた避難訓練</li> <li>・毎年の訓練実施（班編とか訓練通して学ぶ）</li> <li>・中央地区全体での訓練実施</li> <li>・自分の判断をみかくための方法も検討</li> <li>・日にち、時間を指定しない。情報伝達訓練実施</li> </ul>	<p><b>【意識、判断者設定の重要性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トップの意識も重要</li> <li>・3.11 以降意識が高くなっている。</li> </ul>	
2) 準備 する	<p><b>【通信・連絡】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社員の携帯電話を登録→一斉メール配信のルール</li> <li>・自動出勤のルールあり（ガス：震度 5 弱）（ふとう：震度 3）</li> </ul> <p><b>【備蓄】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所ごと備蓄食料+飲料水（全従業員 3 日分）</li> <li>・昔は吹雪に備えて備蓄していたが今は備えていない。</li> <li>・新型インフルエンザ時に準備（3 年前）→社員で消費（期限きたら）</li> <li>・凶面など復旧に必要なものを 2F 以上に</li> <li>・1F は水（津波）につかるので 2F 以上に保管</li> </ul>	<p><b>【通信・連絡】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンビナート地区でのホットライン構築 ⇔相互協力協定</li> </ul> <p><b>【二次災害防止、供給義務】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一旦火がついたら燃やし続けるしかない。</li> <li>・十分な対応が求められる。</li> <li>・安全装置の設置</li> <li>・油断しないで対応していくこと。</li> </ul> <p><b>【お客さんの安全確保】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難方法、経路を考えることが必要</li> </ul>		<p><b>【拠点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波避難タワー</li> </ul> <p><b>【孤立化への対応】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3 日間は耐えて欲しい。</li> <li>・個々の企業での備蓄</li> <li>・避難準備</li> </ul>
3) その他				

	①すぐできること、やっていること		②できるだけ早く対策を考えるべきこと	
	【事業所単位】	【地域】	【事業所単位】	【地域】
1) 知る 学ぶ	<p><b>【防災組織、ポスター】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自衛隊の設置。各役割の指導及び訓練。連絡網の確立</li> <li>・消防訓練。強固な建物（スエーデン製部材）。構内美化（除草、ゴミ拾い）（避難しやすい環境）</li> <li>・防災教育→避難訓練、消防放水訓練、自衛消防組織</li> <li>・安全ポスター掲示</li> <li>・防災をISOで位置づける。</li> </ul>			
2) 準備 する	<p><b>【備品、避難訓練、BCP】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難塩備品は用意している。充分かは？確認！！</li> <li>・一年に一回、防災避難訓練を実施している。組織もあり！！</li> <li>・耐震化→プラントの診断（機械メーカー）評価まで</li> <li>・情報連絡手段→無線機数台保有</li> <li>・BCPの策定→ただし新型インフルエンザ時に作成のため改定必要</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬の寒さ対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大災害時避難場所方法</li> <li>・企業間の連携</li> <li>・まわりの企業との連携、避難経路</li> </ul> <p><b>【備品の活用】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冷凍食品</li> <li>・食料の提供</li> <li>・倉庫→寝具など備品としての活用</li> <li>・食品。缶詰、インテリア、雑貨</li> <li>・米</li> <li>・ダンボールの活用</li> <li>・遠くない範囲</li> <li>・冷蔵庫内の食料</li> <li>・食料の備蓄</li> </ul> <p><b>【避難場所の確保】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波の避難場所、指定設備の整備</li> <li>・1.3万人就労者の避難場所</li> <li>・30m高さある。（冬登れない）</li> <li>・倉庫13~14m、ハシゴ1つ→増設</li> </ul>
3) その他				

	①すぐできること、やっていること		②できるだけ早く対策を考えるべきこと	
	【事業所単位】	【地域】	【事業所単位】	【地域】
1) 知る 学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡網（電話）</li> <li>・緊急連絡網の整備（電話）</li> <li>・緊急地震速報の設置</li> <li>・震度3以上連絡網へ配信（電話）震度5弱以上の時安否確認システム有り（従業員⇄会社）</li> <li>・震災マニュアルの作成（3.11以降→6月頃）→対策本部の設置、組織図、行動指針、避難経路、避難場所。</li> <li>・避難訓練の実施→防災訓練。年2回実施。昼間、夜間（12：00位まで操業）</li> <li>・火災、防災訓練1回／年実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域での取組みなど→大災害の経験なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常用発電機の準備（なるべく上階）←「あらた」→ヘリコプター</li> <li>・井戸水</li> <li>・発電（メガソーラー、風力→充電器に充電→各家庭に貸し出し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区統合防災訓練の実施（区画毎でも良し。新港南全体等）</li> <li>・地域防災連絡網の確立⇄防災組織</li> <li>・災害の連結方法の確立（サイレン等）、避難方法の明示。避難道路の確保→自分で災害から身を守る。（国、道、市役所が決める→各自が共通認識）</li> <li>・（地域毎に）指定避難場所の設置←津波、雪害、地震等に応じて</li> <li>・地域内の避難道路、避難場所の確保と訓練の実施</li> </ul>
2) 準備 する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時用備蓄水（製品）ミネラルウォーター：ガスボトル30t</li> <li>・水、カンパン備蓄品×人数分（全道事業所）</li> <li>・発電機付（手動）ラジオ、ライト</li> <li>・充電式ラジオ（ソーラー）</li> <li>・備蓄品（水3ℓ、缶詰3コ、米、ソフトヘルメット等）→救急セットもあり。（各フロアー）</li> <li>・緊急備品の保管→ラジオ、発電機、寝袋、水、タンカ、簡易コンロ、ガスボンベ</li> <li>・防災備蓄品の用意（リュック入りセット）</li> <li>・燃料の備蓄は物理的にむずかしい。</li> <li>・</li> <li>・グループ全体ではBCP策定中（3社）、自然災害だけではなくテロ、戦争も対象</li> <li>・耐震診断の実施→今後改修予定（一部旧耐震）</li> <li>・耐震基準は満たしても、つり天井は危ない。→対処法を指導</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・衛星電話の検討中（各拠点1台）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>（洪水）</li> <li>・ゴムボート等の備蓄（大雨、洪水等のリスクが大）</li> </ul>
3) その他				<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡易トイレの用意</li> </ul>

	①すぐできること、やっていること		②できるだけ早く対策を考えるべきこと	
	【事業所単位】	【地域】	【事業所単位】	【地域】
1) 知る 学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時連絡網の配布</li> <li>・社員カードに避難場所が書いてある。</li> <li>・消防訓練（加地</li> <li>・意識が薄い</li> <li>・何を伝えるべきか会社の内部で</li> <li>・避難ルート（MAP）掲示</li> <li>・社員に対する防災パンフの配布</li> <li>・防災教育。過去の災害（震度4以上なし。あれば液状化の恐れetc）、連絡網（Tel、メール）</li> <li>・社員への安否確認、メールシステム</li> <li>・緊急連絡網だけある</li> <li>・立地企業の確認が必要になる。</li> <li>・連絡網あるが防災に限ったものでない。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・一時避難所の設定</li> <li>・避難ルート設定</li> <li>・避難する方法</li> <li>・避難訓練</li> <li>・家族避難先設定</li> <li>・伝達手法、誰が判断するか</li> <li>・避難ルートの指定</li> <li>・転倒防止金具取り付け済み →棚に置いた資材の落下防止ベルト導入予定</li> <li>・にげろ！まもれ！の判断が重要</li> <li>・地域の情報収集。ネット、情報メール、避難、経路、場所、他企業の行動地域、市役所</li> <li>・従業員に対する防災教育→9月実施予定</li> <li>・避難訓練→未実施（年内実施予定）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域が混乱しない様な情報伝達</li> <li>・津波、地震ケースで違う。マニュアル化。</li> </ul>
2) 準備 する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入手情報の即時伝達</li> <li>・非常食品、備蓄充実</li> <li>・会社の業務を止めない為の社員の役割分担（BCP）</li> <li>・BCPの策定、想定してBCPに基づく訓練（一部）</li> <li>・BCPに基づいた訓練やった。イメージアップできるけど社員に浸透しない。</li> <li>・発電機用燃料→3日分備蓄</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・帰宅出来なくなった時のための宿泊場所</li> <li>・ヘルメットや懐中電灯などの防災グッズ</li> <li>・災害対応備品。今はリストのみ。特に自家発電設備</li> <li>・非常持ち出し袋準備完了→配布中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タテの道太く（法道、花川通り）</li> <li>・防災を課題としたネットワーク平時から</li> <li>・外部との連絡出来る場所が必要</li> <li>・北ガスタンク副次的災害懸念される。</li> <li>・夜は断線したら「まっくら」になる。</li> <li>・地域、エリアで防災拠点作る必要がある。（保管庫）官民で</li> </ul>
3) その他				



	①すぐできること、やっていること		②できるだけ早く対策を考えるべきこと	
	【事業所単位】	【地域】	【事業所単位】	【地域】
1) 知る 学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社内で会議をする。考えを出し合う。「地震が起きたら工場はどうなるか？」</li> <li>・AED訓練など</li> </ul> <p><b>【いざというとき使える組織】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機械金属組合。組合員31社への災害情報を4班の緊急連絡網により伝える組織図を作成済。</li> <li>→機械金属組合にて組合員企業 ALSOK の機械警備を設置しているので企業で発生した火災等電気トラブルを知る事が出来て組合より31社へ発信できる。</li> <li>・社内防災組織図（連絡体制）地域団地内企業の情報共有化（連絡網の活用）</li> <li>・社内情報等をメール配信（各部署へ）電気とまれば？</li> <li>・社外情報等をメール配信サービスの活用</li> <li>・雪害、集団帰社使用！</li> <li>・人事移動にも対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会社内で避難ルート場所確保</li> <li>・日頃からの安全への心がけ！</li> <li>・組合主催の避難訓練を行う。</li> <li>・避難訓練を行う。敷地外を実際に逃げてみる。</li> <li>・実際に何人は入れる？（目で体で！）</li> <li>・組合単位（組織）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消火栓を使った訓練</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な訓練。 車が横転 鉄骨倒れる 避難に何分？</li> </ul>	
2) 準備 する	<p><b>【何が必要かを知る、必要数を把握】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な災害の想定</li> <li>・ペットボトルの水を用意しておく。</li> <li>・食べ物を購入しておくがいったん大量では賞味期限も大量になるのでちまちま購入する。</li> <li>・きゅうり、すいか…日々備え</li> <li>・火災にならないようにガス経路を遮断する場所を決めておく。</li> <li>・備品（電池、手回し発電→サイレン）</li> <li>・非常時の備蓄品を考える。（必要順から）会議等予算等</li> <li>・トイレは場所を決め、使用ルールを決める。</li> <li>・ロウソクを用意しておく。</li> <li>・帰る人にはヘルメットとペットボトル1本は持たせる。</li> </ul> <p><b>【二次災害リスクを考える】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歩いて帰る人は歩く時間と距離を決め、それ以上の人は帰さない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の他の人が来る想定</li> <li>・組合で停電対策</li> <li>・耐震化はOK</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務所のデータを海から遠い場所（本社等）に移す。</li> <li>・電力を確保できる？</li> <li>・冬期。ストーブ、発電一灯油</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救命艇。事例もあり。</li> </ul>
3) その他				